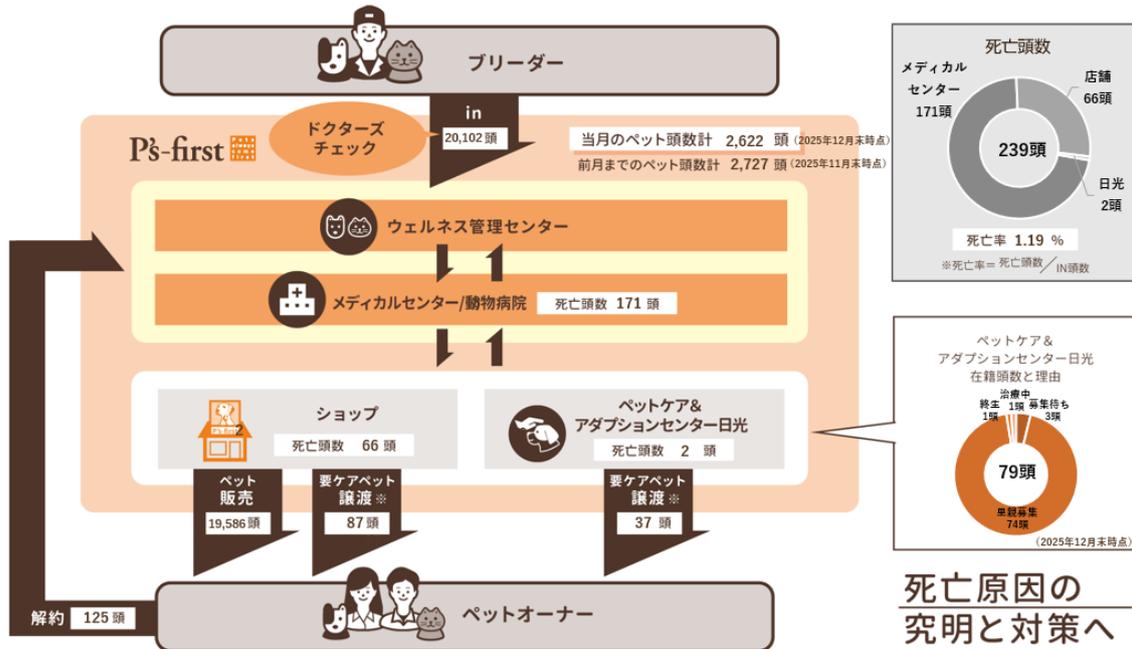


2025年 ペッツファーストマンスリーペットレポート総括
 ～売れ残りを一頭も出さない、病気や死亡事故を根絶するための私たちの取り組み～

“Pets always come first”を理念に掲げるペッツファーストホールディングス株式会社（本社：東京都目黒区、代表取締役：坂本晴彦）は、傘下のペットショップ「P's-first」の2025年における流通過程の重要指標をご報告いたします。

ペッツファースト マンスリーペットレポート 2025年



※要ケアペット・・・お迎え前に疾患が発見され、メディカルセンター/動物病院で治療後に十分な経過観察期間を経て譲渡する、継続的なケアや検査が必要なペット。

■ 2025年 流通過程における重要数値の結果報告

・ 契約ブリーダーから引き受けた頭数および販売頭数

2025年1月1日から12月31日までにペッツファーストグループが取り扱ったペット、すなわち契約ブリーダーから引き受けたペットの頭数が20,102頭、P's-firstでのご契約数は19,586頭でした。ご解約数は125頭です。（グラフ1）

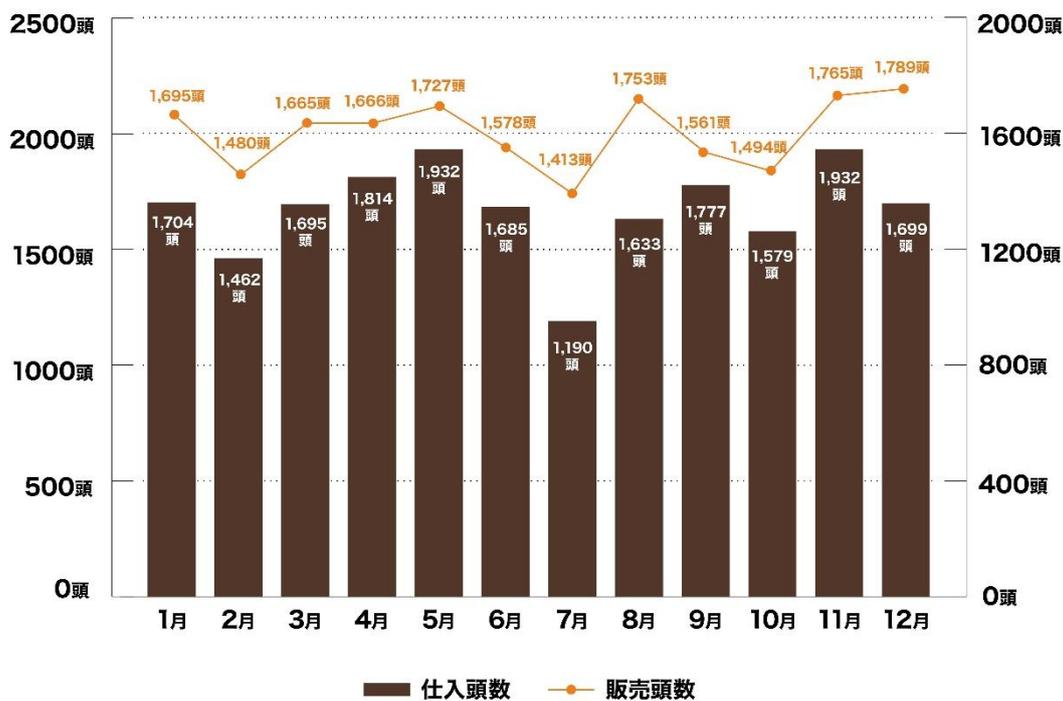
・ 里親譲渡数（要ケアペット）

P's-firstからの里親譲渡数が87頭、ペットケア&アダプションセンター日光からの譲渡数が37頭の合計124頭でした。毎月の平均譲渡頭数は10頭でした。（グラフ2）

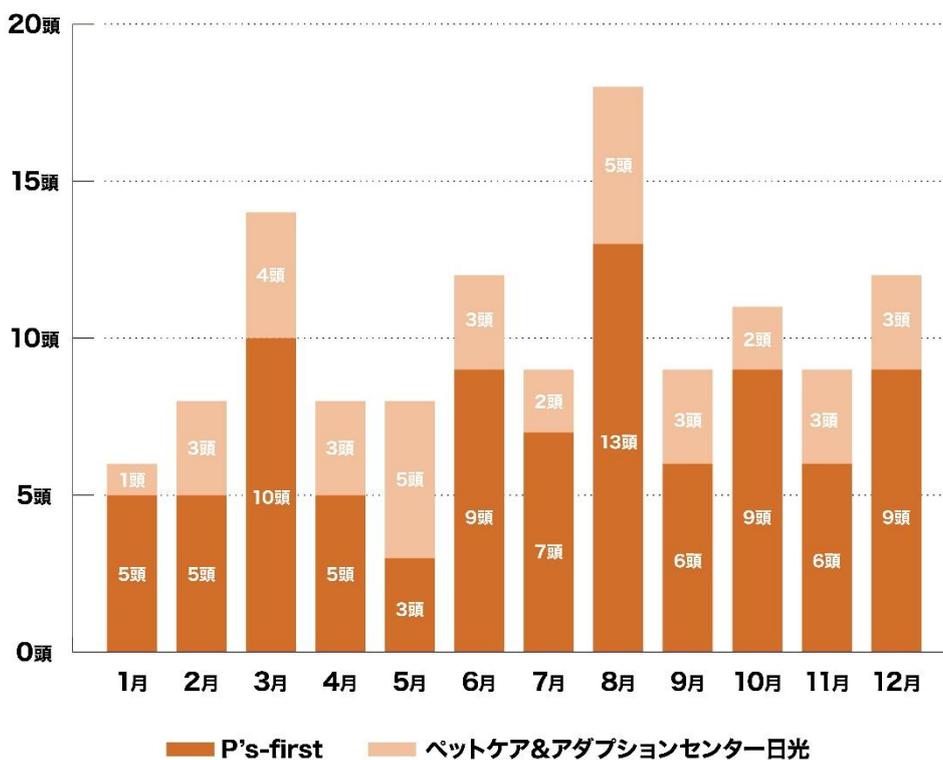
・ ペットケア&アダプションセンター日光における在籍頭数

2025年12月末時点において同施設では79頭が生活し、主に治療を終えた、または回復期にある74頭が里親を募集中であり、1頭が治療中、1頭は終生飼養を行う予定です。毎月の平均の在籍頭数は80頭でした。（グラフ3）

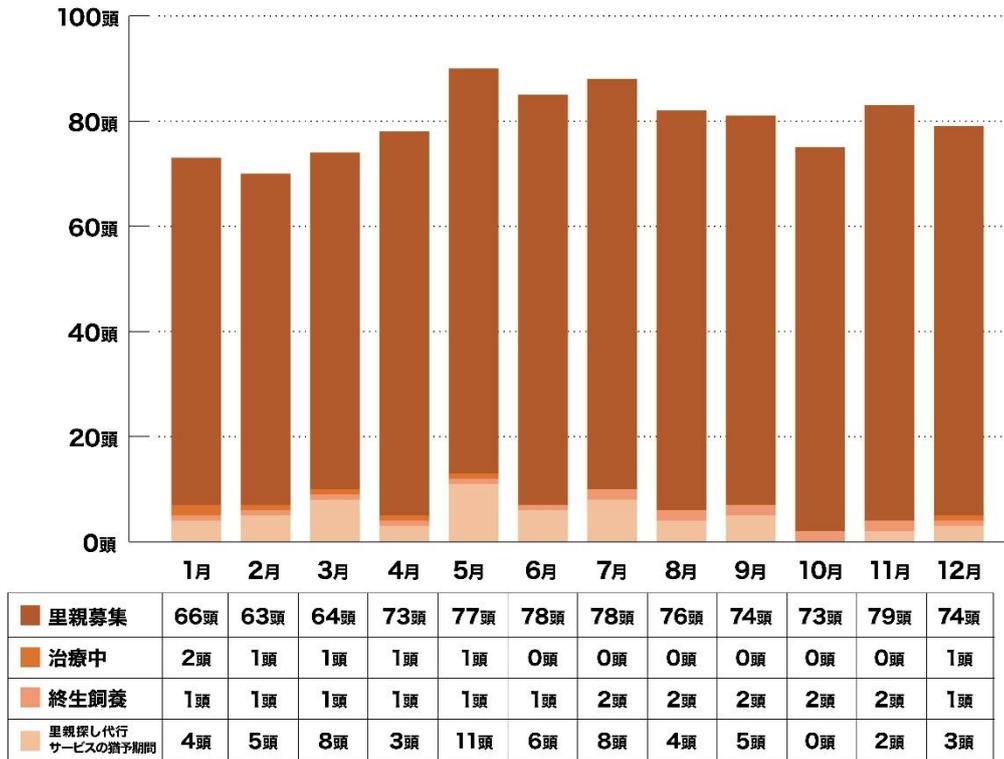
〈グラフ1〉契約ブリーダーから引き受けた頭数および販売頭数の推移(2025年)



〈グラフ2〉里親譲渡数推移(2025年)



〈グラフ3〉ペットケア&アダプションセンター日光における在籍頭数の推移(2025年)



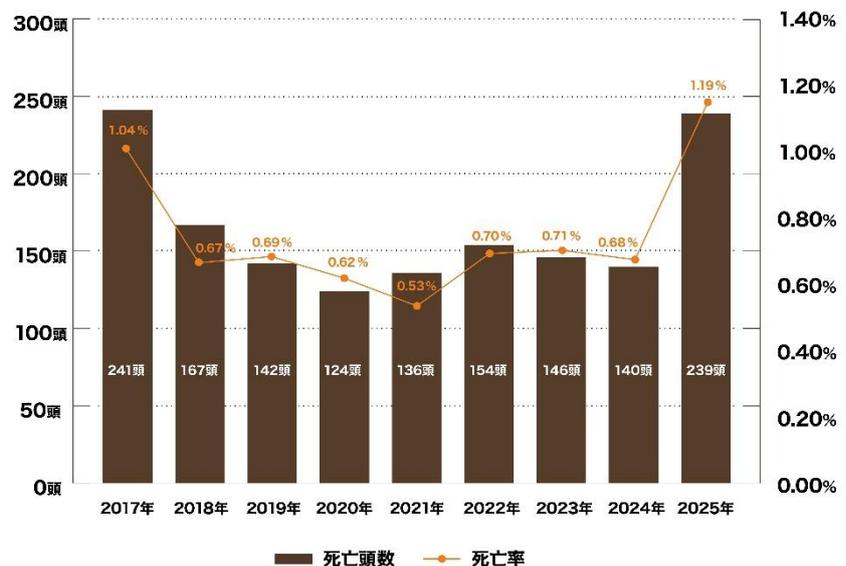
2025年において、ペットファーストグループで取り扱ったペットのうち、いわゆる売れ残りや行き先が分からないペットは一頭も存在しません。

■ 2025年 死亡頭数と死亡率、その原因

一方、病気や疾患などが発見され、当社内メディカルセンターやペットファースト動物病院内等で治療を施したものの、残念ながら発生した死亡事故数は171頭、店舗内等における死亡事故数は66頭、ペットケア&アダプションセンター日光内での死亡事故数は2頭でした。

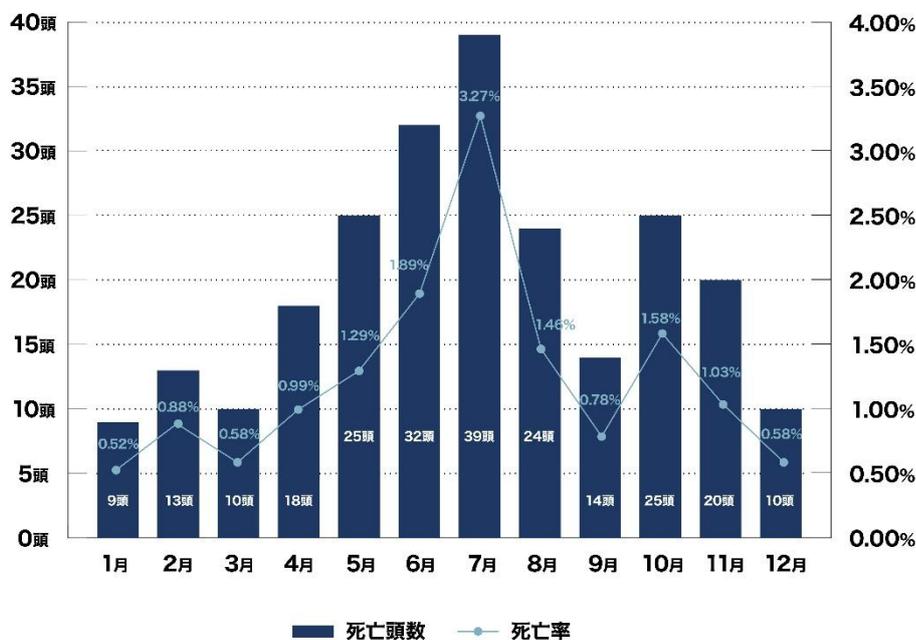
年間死亡事故数は239頭(昨年比+99頭)*1、死亡率として1.19%(昨年比+0.51%)*1でした。

年間死亡頭数と死亡率(2017年~2025年)



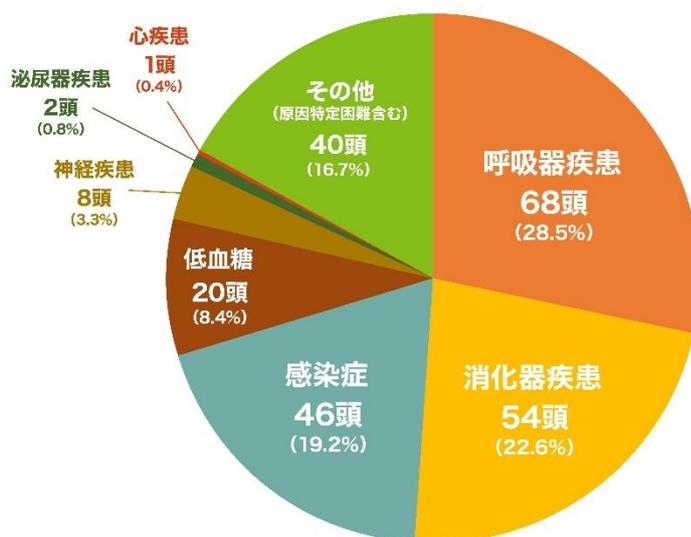
2025年の月別の死亡率推移は以下ようになっており、6～7月において死亡頭数および死亡率の増加が認められましたが、その後、下降傾向を辿っています。

年間死亡頭数と死亡率(2025年)



主な死亡原因は呼吸器疾患が 68 頭 28.5%、消化器疾患 54 頭 22.6%、感染症 46 頭 19.2%となりました。

死亡原因内訳(2025年)



当社では、“ペットの死亡事故ゼロ”を目標に、獣医師を中心とした社内横断プロジェクト「死亡事故ゼロプロジェクト」を運営し、発生要因の分析と再発防止策の検討を継続的に行っています。

2025 年は、死亡頭数・死亡率ともに改善が求められる状況であると認識し、対策を一層強化しました。以下に、その主な取り組みをご紹介します。

[*1: 2024 年 ペッツファーストマンスリーペットレポート総括～ペットショップとして売れ残りを一頭も出さない、病気や死亡事故を根絶するための私たちの取り組み～](#)

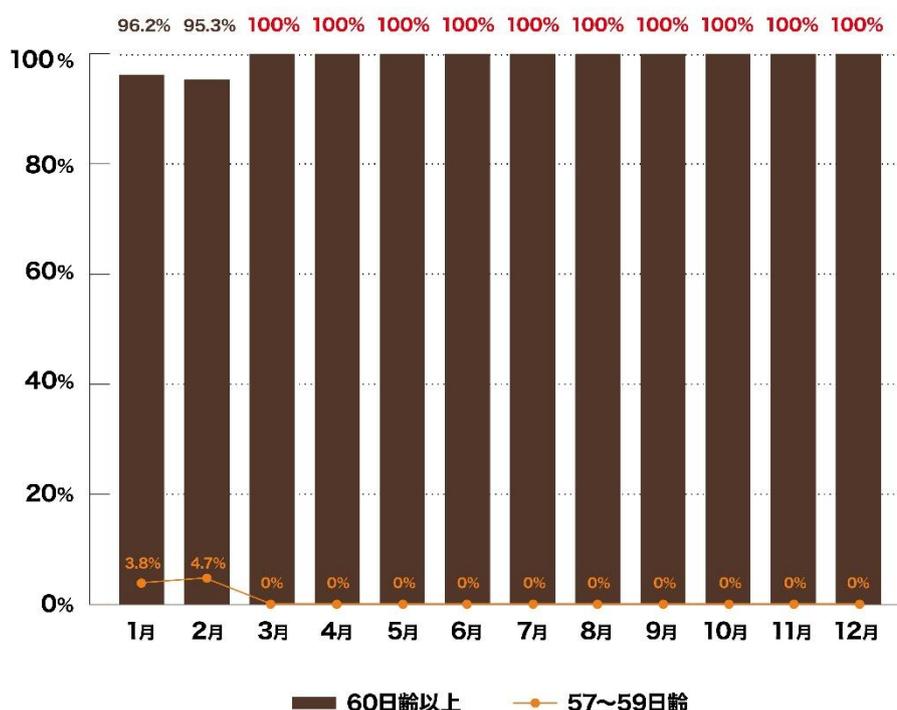
■ 2025 年 死亡事故ゼロを実現するための取り組み～ブリーダーとの取り組み～

① 60 日齢以上へのペットの取引日齢引き上げ

動物愛護管理法では生後 57 日齢以上でのペットの取引および販売が定められていますが、より高日齢での取引が疾病リスクの低減につながることは明らかです。

これを受け、2024 年 4 月に取引日齢を 60 日齢以上へ引き上げる方針を公表^{*2}し、2025 年 3 月末時点で 100%を達成しました。その後も、生後 60 日齢以上でのペットの取引を継続しています。

取引日齢推移(2025年)



本施策は、取引段階から健康管理体制を強化し、死亡リスクの低減につなげる取り組みとして、今後も継続して推進していきます。

*2: 関連ニュース

2024 年 4 月 23 日発行ニュースリリース

[ペット販売の生後 8 週齢 \(56 日齢\) 規制に対する私たちの考え方～生後 60 日齢での取引基準への引き上げに関するお知らせ～](#)

2024 年 8 月 7 日発行ニュースリリース

[ペット業界におけるペットオークションやブリーダーなどの日齢偽装問題への対策～「生後 60 日齢以上への取引基準引き上げ」に関する進捗報告 2024 年 6 月度～](#)

② ペットの遺伝子病検査の開始

当社では、ペットの取引後の医療対応にとどまらず、取引前・繁殖段階から病気の発生リスクを低減する取り組みを進めています。その一環として、遺伝子病ゼロを目指し、遺伝子病検査体制の構築を進めて

きました。

そこで、2025年7月より、致命的、またはQOLに大きな影響を及ぼす重篤な遺伝子病を対象とした子犬・子猫の遺伝子病検査を、自社検査施設「PF Lab」にて開始し、遺伝子病リスクがない子犬・子猫を販売すると同時に、子犬・子猫の遺伝子病検査結果をブリーダーにフィードバックをすることで、改善を求めてきました。

さらに2025年11月からは、ダックスフンドで見られるPRA（進行性網膜萎縮症）CORD1撲滅に向け、鹿児島大学 大和修教授の監修のもと、ダックスフンドの親犬を対象とした遺伝子病検査を開始しました。親犬を含めた検査体制の構築により、繁殖段階からのリスク低減を図ってまいります。^{*3}

当社はブリーダーと直接取引を行っているからこそ、検査結果を繁殖現場へフィードバックし、実効性のある遺伝子病対策につなげることが可能となっています。遺伝子病によって苦しむペットや、遺伝子病を原因とする死亡をゼロにすることを目指し、今後も取り組みを継続していきます。

*3：関連ニュース

[子犬の遺伝子病発生ゼロを目指し、ブリーダーとの新たな取引方針を策定～親犬の遺伝子病検査と取引前の確認により、遺伝子病の発生を防ぐ仕組みを構築～](#)

■ 2025年 死亡事故ゼロを実現するための取り組み～P's-first 店舗における取り組み～

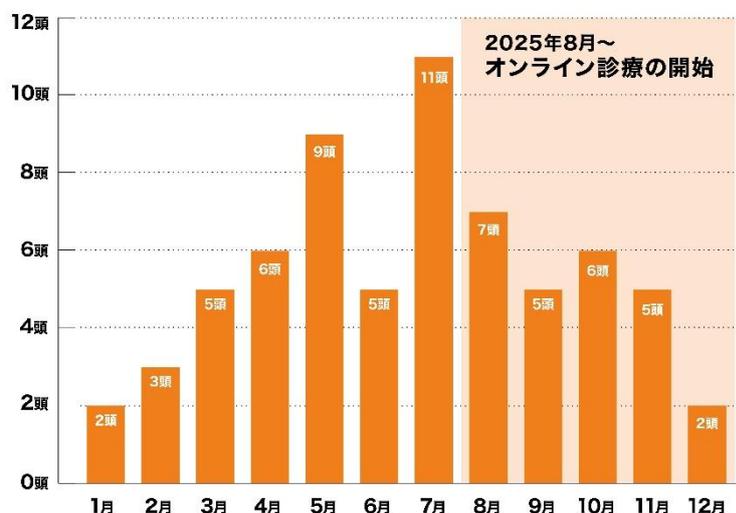
① オンライン診療の試験導入

各 P's-first 店舗における日常的な健康管理と、異変発生時の初動対応体制の強化を目的として、2025年8月より、オンライン診療の試験導入を開始しています。

当社におけるオンライン診療では、店舗にいながら獣医師の診察を受け、必要に応じて投薬や通院判断を行います。診療においては、ペッツファースト動物病院の獣医師が中心となり、体調不良時の初期対応を担っています。

これにより、症状の重篤化を防ぐとともに、早期発見・早期治療につながる体制を整えました。導入以降、対象店舗では死亡率が減少傾向にあり、一定の効果が確認されています。

店舗死亡頭数(2025年)



本取り組みは、店舗における判断スピードと医療アクセスの向上を通じて、死亡リスクの低減を図る施策として、今後も検証・改善を重ねながら展開していきます。

■2025年 ペットの死亡原因と対策～ウェルネス管理センターおよびペッツファースト動物病院における取り組み～

① 専門家による定期視察（東京ウェルネス管理センター）

当社では、店舗に配属される前のペットを一時的に預かる拠点として、全国3カ所にウェルネス管理センターを展開しています。各センターでは、健康管理をはじめ、清潔な寝床づくり、給餌、衛生ケアなどを行い、ペットが安心して過ごせる環境の整備に努めています。

短期間の預かりであっても、愛情をもって接し、心身ともに安定した状態で店舗へ送り出すことが重要であるとの考えのもと、ウェルネス管理体制の継続的な見直しを行っています。

その中核となる東京ウェルネス管理センターでは、シェルター・メディスンの専門家である日本獣医生命科学大学 田中亜紀特任教授に定期的な視察を実施いただき、ペットのウェルネス向上および死亡事故ゼロに向けた具体的な助言を受けています。

いただいた助言を踏まえ、2025年は特に猫舎環境の改善を進め、猫の行動特性を考慮したステップの設置など、運動や行動選択の幅を広げる空間づくりを行いました。こうした環境整備は、ストレス軽減や体調管理の観点からも、重要な取り組みと位置づけています。

② 獣医師・動物看護師の拡充

全国のウェルネス管理センターおよびペッツファースト動物病院では、獣医師・動物看護師が常駐し、ペットの健康管理にあたっています。

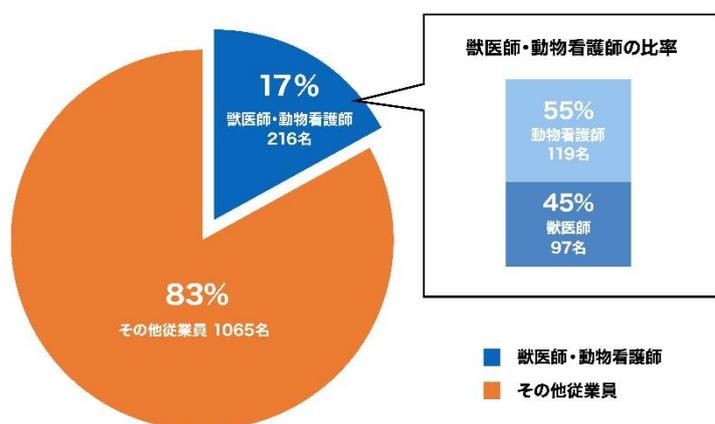
死亡事故ゼロの実現と、さらなるペットのウェルネス向上を目指し、人員体制の拡充を進めた結果、2025年12月末時点における獣医師・動物看護師の割合は17%（計216名 ※業務委託含む）となっています。

また、全国のビバホーム、ホームセンタームサシを中心に展開しているNICO PET 動物病院が2025年よりペッツファーストグループへグループインし、さらなるペットのウェルネス管理にあたっています。

また、動物看護師に対しては愛玩動物看護師資格の取得支援（※）を実施しています。2025年2月に行われた第3回愛玩動物看護師国家試験では、10名が合格し、各拠点においてペットのウェルネス管理に貢献しています。

※過去の実績：国家試験合格時のお祝い金支給、資格取得後は資格手当を毎月支給（2025年5月時点）

全従業員に対する獣医師・動物看護師の割合（2025年12月末時点）



こうした一連の対策強化を基盤として、当社では死亡事故の要因分析と対策を体系的に進めています。

■「死亡事故ゼロプロジェクト」リーダー 稲富獣医師コメント

学術室 室長/獣医師
稲富 太樹夫

2025年は特に多くみられた、呼吸器疾患、感染症、消化器疾患の3領域を重点課題として対策を進めてきました。

・呼吸器疾患について

呼吸器疾患は、細菌やウイルスなど原因が多岐にわたるため、まずは環境整備が最も重要であると考えています。エアコンによる空調管理等の基本的な対策を徹底するとともに、原因特定を目的とした新たな検査キットの導入を進めました。

また、子犬・子猫では呼吸器症状が急速に進行し、重篤化するケースも見られたことから、オンライン診療を活用し、より早期の段階で獣医師が介入できる体制を構築しました。

これらの取り組みの結果、2025年12月度には呼吸器疾患による死亡事故はゼロとなっており、今後も継続して対策を強化していきます。

・感染症について

感染症対策では、病原体を持ち込まない水際対策と、万が一侵入した際の拡大防止が重要です。

当社では、ペットへの負担が少なく、かつ感染症制御に有効なペロキサイドを用いた消毒を実施しており、2025年にはその消毒方法の継続的な見直し・改善を行いました。水際対策の一環として、感染症への罹患の可能性について犬については全頭検査を開始しました。

その上で、感染症への罹患が疑われる場合には、原因となるウイルスや細菌を早期に特定することが不可欠であるため、ウェルネス管理センターへPCR検査機器を導入し、迅速な原因特定に取り組んできました。

2025年は一時的に感染症の発生が増加した時期もありましたが、こうした対策を講じることで、同年12月には発生数を抑制することができています。

・消化器疾患について

子犬・子猫における軟便や下痢は、短期間であっても命に関わるケースがあり、栄養状態の悪化を招くリスクも高い疾患です。そのため、オンライン診療を活用した早期の獣医師介入に加え、栄養管理を重視した対策を実施しました。

具体的には、症状や成長段階に応じて療法食を適切に活用し、エネルギー効率の高いフードを用いることで、子犬・子猫の健やかな成長曲線を維持できるよう改善を行っています。

■2025年の総括と今後に向けてー「死亡事故ゼロ」の実現に向けた取り組みー

ペットファーストでは、「死亡事故ゼロ」を重要な経営課題として掲げ、2025年は、ペットの取引前から店舗、医療体制の整備まで一貫したリスク低減策を強化しました。

ペットの健康管理に「これで十分」という到達点はなく、環境の変化や新たな課題に応じて、取り組みを進化させ続ける必要があると考えています。

2026年以降も、データと専門知見に基づく改善を継続し、「死亡事故ゼロ」の実現を目指し、様々な施策に取り組んでまいります。

■日本獣医生命科学大学 田中亜紀特任教授コメント



日本獣医生命科学大学
田中亜紀 特任教授

ペットの集団飼養の適正化および健康・福祉の向上を目的として、ペットファーストグループと共同研究を進めています。2025 年は、ウェルネス管理センターの定期的な視察を実施しました。

ペットがウェルネス管理センターで過ごす期間は短期間であっても、その環境は心身の安定に大きな影響を及ぼします。犬や猫の行動特性を踏まえた空間設計や、動物自身が選択できる要素を備えた環境づくりは、動物福祉の観点から重要であり、死亡事故ゼロの実現に向けても基盤となる取り組みです。

同グループが、こうした視点を取り入れながら継続的に環境改善を進めている点は評価できるものであり、今後も科学的根拠に基づく取り組みがさらに発展していくことを期待しています。

引き続き、ペットがご家族のもとへ迎えられまでの期間において、動物福祉を最善の状態に維持できるよう、協働のもと研究を進めてまいります。

【プロフィール】

名前：田中亜紀 先生

経歴：現職 日本獣医生命科学大学 特任教授

日本獣医生命科学大学卒業 獣医師

動物病院勤務を経て、2001 年度米

米カリフォルニア大学デービス校にて、環境毒性学部で修士課程修了後、

シェルター・メディスンの研究で獣医予防修士課程修了。

同校でシェルター・メディスンと災害獣医学の研究をテーマに博士課程修了。博士（疫学）。

2019 年 4 月より現職。獣医師。

■取締役社長 正宗伸麻コメント



ペットファーストホールディングス株式会社
取締役社長 正宗 伸麻

2025 年 6 月、私たちは「くらし、満たす。こころ、満たす。」を理念に持つアークランズの一員となり、「幸せなペットライフ」の実現を通じて、よりお客様の豊かな暮らしを支える責任ある立場へと進化いたしました。この大きな変革期にあっても、私たちの根幹にあるのは「Pets always come first」という変わらないポリシーです。

本レポートで公表した通り、2025 年度の年間死亡率は 1.19%（239 頭）という結果になりました。私たちはこの数字を単なる統計値としてではなく、失われた一つひとつの尊い命の重みとして、全社員で深く厳粛に受け止めております。特に夏季の死亡頭数増加を重く受け止め、直ちに獣医師によるオンライン診療の試験導入や、自社ラボでの高度な検査体制の拡充を進めました。

また獣医師、動物看護師の人員体制も 216 名（全従業員の 17%）まで大幅に強化させました。

こうした体制強化に加え、日本獣医生命科学大学の田中亜紀特任教授との共同研究を通じ、シェルター・メディスンの知見をウェルネス管理センターの環境改善に導入いたしました。科学的根拠に基づいた集団飼育管理の最適化を進めた結果、12 月には主要な死因であった呼吸器疾患による死亡をゼロに、直近の 2026 年 2 月においては死亡率 0.31%（5 頭）にまで抑えることができ、来期に向けて着実な改善の兆しが見えております。

また、私たちの責任は販売の現場だけに留まりません。

今期においても、「売れ残りを一頭も出さない」という誓いをこれまで通りに守り抜き、取り扱ったペットを販売だけでなく、年間 124 頭の里親譲渡により飼い主様へ迎えていただくことを実現できたこと、そして「ペットケア&アダプションセンター日光」において終生飼養を含む手厚いケアも継続していることは、私たちの何よりも大切な方針です。さらに、ブリーダー様と一丸となり、取引日齢の 60 日齢以上への引き上げを 100%達成したこと、そして遺伝子病検査の徹底により、繁殖段階から重篤な病のリスクを根絶する取り組みを加速させています。私たちペットショップだからこそ実現できる取り組みがあると確信しています。

命を扱う企業として、健康管理に「これで十分」というゴールはありません。来期もグループのシナジーを活かし、専門家との連携による科学的な動物福祉を追求しながら、すべてのペットが幸せな一生を全うできる社会の実現に向け、透明性を持って邁進してまいります。

■会社案内

【会社名】 ペッツファーストホールディングス株式会社
【所在地】 〒153-0063 東京都目黒区目黒 1-24-12 オリックス目黒ビル 9F
【資本金】 100 百万円
【売上高】 14,659 百万円（2024 年度実績）
【従業員数】 1,257 名（うち獣医師 95 名 愛玩動物看護師 95 名※業務委託含む）2026 年 2 月末時点
【代表者】 代表取締役会長 CEO 坂本晴彦
取締役社長 COO 正宗伸麻
【ニュースレター】 <https://www.pfirst.jp/newsletter.html>

※2025 年 6 月 6 日、ペッツファーストホールディングス株式会社は、アークランズ株式会社のグループ会社となりました。

【会社名】 アークランズ株式会社
【所在地】 〒955-8501 新潟県三条市上須頃 445 番地
【資本金】 6,462 百万円
【売上高】 315,700 百万円（2025 年 2 月期）
【従業員数】 13,094 名
【代表者】 代表取締役会長 CEO 坂本晴彦
代表取締役社長 COO 佐藤好文

【その他】

アークランズ株式会社は「くらし、満たす。こころ、満たす。」をスローガンに業界をリードする生活価値提供グループを目指し、ホームセンターの「ムサシ」、「ビバホーム」、とんかつ専門店「かつや」、からあげ定食専門店「からやま」等の「住」と「食」に関わる事業を展開します。独自の進化と変化を続ける事で専門性を極め、お客様の「もっとくらしを豊かにしたい」というおもいにお応えします。

■お問い合わせ先

【本掲載内容について】
ペッツファースト株式会社 広報室
電話番号 03-6910-4500
担当者 西河・小野